

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成19年11月28日)

事業コード	H19-建-終-11		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業(市町村代行)		部 局 課 室 名	建設交通部 道路課
事業種別	橋梁整備		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(市)菅生生内線		担 当 課 長 名	加藤 修平
箇所名	湯沢市皆瀬 川向		担 当 者 名	主幹(兼)班長 伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	4	施 策 名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	9	施策目標(指標)名	その他施策関連事業

1. 事業の概要

事業の背景及び目的	本路線は、国道398号・旧皆瀬村菅生地区を起点とし、県道小安温泉椿川線・生内地区に至る生活幹線道路である。また、国道398号の緊急時の代替路線としての性格を有し、当該区間の完成により全線改良となる。しかし、当該箇所は地滑り防止区域を抱え狭隘・屈曲部(Wmin=3.0m、Rmin=15.0m)な道路の連続で一年を通じた交通の安全確保に支障をきたしていた。そのため、交通隘路区間の解消、冬期末改良区間の解消のため道路整備を行ったものである。						
事業期間	前回	H14年 ~ H17年	総事業費	前回	17.0億円	国庫補助率	0.55
	終了	H14年 ~ H17年		終了	18.2億円		
事業規模	前回	延長L = 299m 幅員W = 6.0(11.0)m					
	終了	延長L = 302m 幅員W = 6.0(11.0)m					
事業効果の要因変化及び発現状況			前回評価計画	最終	増減	理由	
	事業費		1,700,000	1,820,000	120,000		
	経内費	工事	1,623,500	1,734,294	110,794	橋脚基礎の変更による。	
		用補	0	0	0		
		その他	76,500	85,706	9,206		
	事業内容		橋梁工	橋梁工			
	コスト・効果対比較			費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)			
	最終コスト 終了C / 前回評価C = ( 1.07 )			【便益】 前回評価時に、制度上B/Cを算出していない。			
	費用便益 前回評価B / C = ( - )			【費用】 橋脚基礎部の土質調査の結果から、基礎が変更となったため、工事費を増額した。			
	終了B / C = ( 1.06 )						
目標達成率	指標名	基幹道路整備済延長					
	指標式	基幹道路整備済延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 (無)		
	目標値a	3,171km		データ等の出典	道路課調査結果		
	実績値b	3,171km					
	達成率b/a	100.0%		把握の時期	平成19年10月		
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む						
自然環境の変化	特になし						
社会経済情勢の変化	平成17年3月22日に旧湯沢市・稲川村・雄勝町・皆瀬村が合併し、湯沢市となった。						
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	歩道を整備したことにより、歩行者の安全性が確保された。						

住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象 (受益者) 一般県民 (時期: 平成19年 8月) 満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に ) 満足度の状況 当該区間を利用する地域住民から、道路整備により安全に走行できるようになり、特に冬期間の安全や歩行者の安全が確保された旨の意見があった。
上位計画での位置付け	あきた21総合計画において「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」の位置づけあり。
関連プロジェクト等	地域振興プロジェクトである「県内外との交流を促進する道路網の整備」の位置づけあり。
前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留又は中止 指摘事項
	指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 (A) B C 住民アンケートにおいて、安全な交通が確保されたという意見が多く出されていた。さらに、満足・やや満足との意見が99%であった。	(A)
	事業の効果 (A) 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満 当該事業は計画通り進捗し、基幹道路整備済延長目標を上回った。	B C
効率性	事業の経済性の妥当性 (A) B C B/Cが1.06となっており、事業の経済性においては妥当である。	(A)
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし -	B C
総合評価	(A) (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 計画に沿って着実に事業が進捗し、地域住民の交通安全確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、事業は妥当である。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業開始前の予備調査や設計段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。
--

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。
----------------

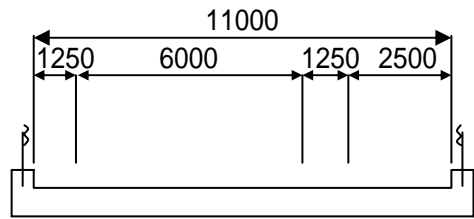
総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	

# 市道 菅生内線 川向工区



標準横断図



整備前



整備後

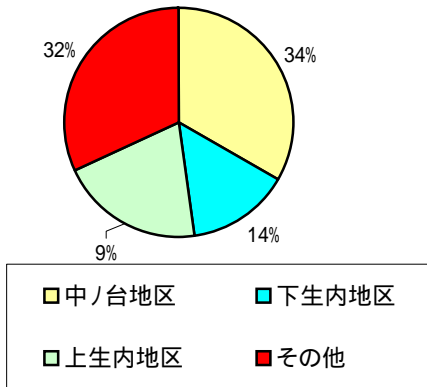
# 道路整備の効果に関するアンケート結果

(市)菅生生内線 川向工区

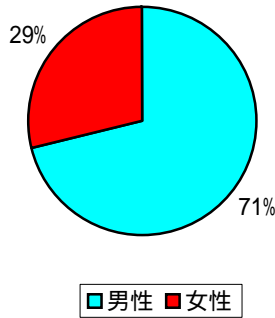
配布枚数: 100 枚  
回収枚数: 69 枚 (回収率 69.0%)

## 回答者の状況

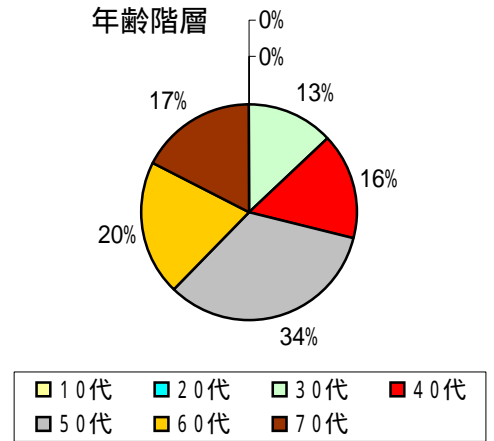
### 住居地区



### 性別



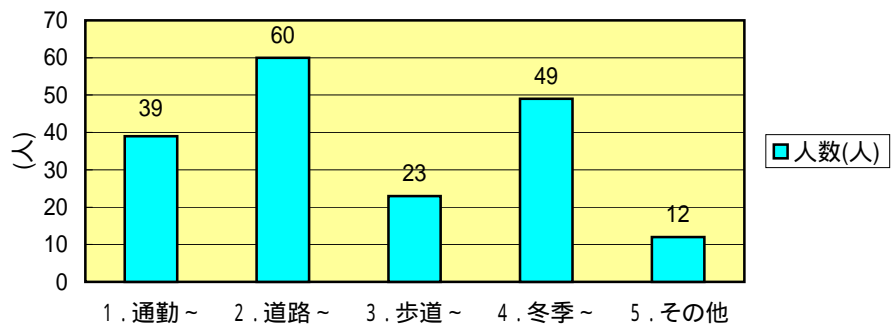
### 年齢階層



## 調査結果

(設問1) 「(市)菅生生内線 川向工区」の道路整備工事が完成したことにより、どのような効果がありましたか。 複数選択も可。

1. 通勤、通学等の時間が短縮された。
2. 道路が広くなったので、安全に走行できるようになった。
3. 歩道が整備されて、通学通勤の安全が確保された。
4. 冬期交通の安全が確保された。
5. その他



(設問2) あなたは「(市)菅生生内線 川向工区」の道路整備に満足していますか。

